

## 令和2年度第2学期始業式式辞（放送）

おはようございます。1学期の終業式から約2週間、短い夏休みでしたが、少しはリフレッシュできましたか。直接、生徒の皆さんの元気な顔を見て話をするのができないのは残念ですが、これから学校内で会った時には、マスク越しでも笑顔で挨拶を交わしましょう。

さて、全世界を揺るがすコロナ感染症の収束が見通せない社会状況です。人類を窮地に追い込む自然災害や今回の感染症拡大は、これまで多くの恩恵をもたらしてきた科学でさえも容易に解決できない現実を知らしめています。しかし、思い通りにいかない現実も、受け止め方次第で問題解決の道が開けたり、自分にとっては成長の機会にしたりすることもできるように思います。1学期の終業式の式辞では、「希望を忘れない。希望をもってこれからの時代、社会づくりに貢献しよう」と伝えました。そこで今日は、「希望をもって学校生活を送ろう」という話をしたいと思います。

すでに、先生方からも伝えられている通り、今年度中止、代替行事を考えるとしていたEMK学校祭、文化祭・体育祭について、安全対策を第一にとりながら実施することにしました。リーダー育成の穎明館の教育目標の下、主体性を育む生徒活動をもちたい、学校文化・学校体育文化を継承していきたいというのが目的、ねらいです。この判断をするためには、長い時間をかけて先生方で話し合ってきました。また、文化祭・体育祭の生徒実行委員長からは私も直接、その思いを聞く機会をもちました。その際、「頑張っているクラブやクラスの発表の場を持ちたい」とか、「先輩から受け継いだ心に残る行事をつなげていきたい」という実行委員長の熱い思いが、私の心に響きました。正直なところ、生徒の皆さんの安全面の確保、準備・指導に当たられる先生方の苦労や授業の遅れなど、心配なこと、気になることは数多くあります。それでも今年度、宿泊体験学習をはじめ、予定されていた学校行事が、ことごとく中止となる中で、行事を無事に成功させて、学校が一体になれる機会をつくりたい、生徒の皆さんに達成感を味あわせたい、という思いから可能性を探ってきた結果です。学校は希望の場でなくてはいけません。この判断が皆さん穎明館生の希望につながることを願っています。

ただし、皆さんもご承知の通り、東京都のコロナ感染状況は、依然として深刻さを増しています。状況次第では、急きょ中止の判断をしなければならないこともあり得ます。それでも皆さんは、実施できることを信じて、ルールや注意事項を守って準備を進めてください。「コロナで厳しい状況の中でもこれだけのものを創れた、残せた」ということが、穎明館生一人ひとりの、そして学校全体としての自信につながることを期待しています。

ところで、「希望をもって学校生活を送る」上で、皆さんに意識してほしいことがあります。「1秒を生かす」という言葉を聞いたことはありますか。一般的に聞き取りやすい言葉のスピードは、1秒間に五文字だそうです。五文字というと、先ほど「挨拶を交わそう」と申しましたが、「こんにちは、ありがとう、すみません、さようなら」に代表される挨拶の言葉は五文字です。コミュニケーションの基本である挨拶は、わずか1秒でできるのです。また、「思い通りにいかない現実も、受け止め方次第で問題解決の道が開ける、自分にとって成長の機会にできる」とも言いましたが、「がんばろう」、「やってみる」という意欲的な姿勢と、「しかたない」、「もうやめた」という諦めの姿勢の違いも五文字でしかありません。このわずか五文字、声に出してみてもわずか1秒の差の積み重ねが、皆さんのこれからの人生の差になっていくのです。そこで皆さんには、価値ある1秒の挨拶や、五文字でも示すことのできる意欲的な姿勢を通じて、自分が関わる周囲の人のためになるような言動や行動を心がけてほしい。そしてゆくゆくは、世の中に希望を与えられるようなリーダーとしての生き方を全うしてほしい、と願っています。

さて6年生、受験生の皆さんにとって「1秒を生かす」は、文字通りに時間を有効に生かすということですね。「焦らず、恐れず、怠らず」。例えば模擬試験の結果だけを見て、「もうだめだ」とネガティブな自己暗示をかけずに、ミスの内容をよく吟味して、「これからだ」とポジティブにとらえ直してみてください。2学期は実りの秋、自分自身を鼓舞して前進していきましょう。

まだまだ暑い毎日が続きそうです。コロナ対策、熱中症対策、2学期も健康管理に十分注意し、希望をもって、充実した学校生活を送りましょう。

以上、令和2年度第2学期始業式の式辞といたします。